



つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部
2022年 2月号

1年間ありがとうございました。



今年度も、聴覚障害のある幼児、児童、生徒への支援にあたって、本校と連携をとっていただきありがとうございました。また、研修会への参加、聴力測定や教育相談への同行など、お忙しい中、時間をとっていただき感謝いたします。

コロナウイルスで開催が危ぶまれる中、中高生企画を実施することができました。新たな取り組みを大学生に提案してもらいましたので、今後の活動に幅を広げられるかなと感じております。

担当している子どもが自分の耳のことをどのように感じ、これからどのように成長していくのか、本当に必要な支援は何かを考えてくうえで、当事者や関係者の方々の連携は大きいと考えています。来年度もよろしく願いいたします。

来年度の 予定

春・夏の補聴相談

夏：7月22日(金)～29日(金)
春：3月20日(月)～28日(火)

教育相談も兼ねていますので、担当の先生もぜひ同行していただき、学校での様子などをお聞かせください。

担当者研究会

来年度の担当者研は、決定しだい連絡します。

1回目は、基礎講座として聴覚障害の基礎知識および支援、自立活動についての話、担当者同士の情報交換会を行います。2回目は、決定しだい連絡させていただきます。

集まれ！中高生

来年度は 8月16日(火)

同じ障害を持つ仲間との出会いの場です。日頃思っていること、悩みなどなんでも話してみましょ。交流会に加えて「聞こえのミニ学習会」も行う予定です。ぜひ参加を呼びかけてください。

きらきら☆なかよし交流会

来年度は 7月21日(木)

きこえない・きこえにくい子供同士での関わりやコミュニケーションを楽しめるような企画を計画しています。多くの参加をお待ちしております。

星の王子さま☆三



バリアフリー演劇をご存じですか？

先日、文化鑑賞会に東京演劇集団「風」さんに来ていただき、盲学校とろう学校の中高生が体験しました。

バリアフリー演劇は、演劇の表現自体にバリアフリーを組み込む方法をとっています。健聴者の世界に合わせるのではなく、健聴者・障害者という枠組みを取っ払って、誰もが同じように舞台を楽しむことができます。



芝居に溶け込んだバリアフリー

字幕や音声ガイドといったツールを利用するだけではなく、演出自体にバリアフリーの試みを入れ込んでいました。例えば、手話通訳者が芝居に溶け込むような形で通訳をしていたり、音声ガイドがスピーカーから流れ、台詞と台詞の間の状況説明などを補完していました。音声ガイドは、作品の背景や設定の解説をするというよりは、作品そのもののイメージが想像してもらいやすいような言葉を選んで伝えているので、視覚障害者だけでなく、レシーバー側の人々は、その世界に入りこんで作品を見ることができました。

生徒の感想

「舞台が本格的で臨場感があった。」「体育館が暗くなり、煙が出たりして楽しかった。」「手話通訳と一緒に手話をしながら、劇をしていたのでびっくりした。」「話の内容がわかりやすかった。演技力と表現力が高く、本当の星の王子さまや花やキツネに見えた。」「表現や口の動きがとてもわかりやすかった。」と大好評でした。

演劇の力

演劇という芸術の1つは、バリアフリー化が進んでいます。演劇も昔の歌舞伎も、日々の疲れを忘れさせてくれる、人々の心のよりどころでした。バリアフリー演劇には、生涯の枠をこえて、人々のよりどころになる芸術の1つだと感じます。



大学って、どうやって決めるの？

聴覚障害のある子どもたちにとって大切なのが情報保障。行きたい大学や進学先に情報保障がどれくらいあるのか、高等部の生徒達にとって進路は、希望とともに不安もいっぱいです。大学にある情報保障には、どのようなものがあるのか、ご紹介したいと思います。

- ・講義中:手話、FM補聴システム・ロジャーの使用や音声文字変換などの利用、ノートテイク、PCテイク、DVDに字幕
- ・語学授業は、別の課題で対応
- ・入試:リスニングは免除。試験開始や終了の合図、筆談や手話通訳での面接等

情報保障は、学校によってまちまちです。受験を考える際には、大学に問い合わせたり、オープンキャンパスなどで事前に相談したりすることが大切です。どのような情報保障があるか、「聴覚障害生支援MAP」を検索すると、全国の大学の支援状況を閲覧することができます。また右の冊子には、入試や授業での情報保障が掲載されています。進路の先生に一度尋ねてみてください。

手話が保障されている大学紹介

- ・筑波技術大学(茨城県)・・・産業情報学科、総合デザイン学科、寄宿舎あり
- ・日本社会事業大学(東京都)・・・社会福祉学部 など他にもあります。

